

## 施策評価調書【令和7年度実施事業】

政策名	7 地域が輝くまちの創生	関係課名	本匠振興局
施策名	4 よし 最高の水あそびを 用意しよう！ ～本匠地域～		
総合計画頁	P104～105		

## 【1-1 主な取組】

	ア	イ	ウ	エ
主な取組	人と自然が共生した環境の整備	地域の特性をいかした特色ある地域産業の推進	道路整備や住み慣れた地域で安心し、生きがいを持って暮らせる地域づくり	

## 【1-2 主な取組の実施状況】

主な取組	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
ア	<p>(ア) 清流番匠川を維持するため、自然環境に配慮した整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省所管・・・棕ノ木台地区（笠掛橋下流右岸側 河川支障木等撤去）</li> <li>(イ) 防災減災に配慮した災害に強い環境整備</li> <li>・国土交通省所管・・・三股地区（久留須川（下三股）河道掘削護岸工事）</li> <li>・市道各所の整備・・・波寄地区（地区内危険支障木伐採）</li> </ul> <p>堂ノ間地区（市道井ノ上・福園・板屋線支障木伐採） 山部地区（市道腰越線離合所修繕、市道山部中央線横断暗渠呑口土砂撤去）</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
イ	<p>(ア) ホタルなどの自然環境を活用した観光産業、地場産業の推進</p> <p>①第30回「本匠ほたる祭り」を地区住民・関係者、本匠地域コミュニティ協議会と連携し開催した（イベント来場者：約3,000人）。 ・佐伯市ホームページ等を活用した駐車場の満車情報を発信や、駐車場の分散化により特に混乱は無かった。</p> <p>②「板屋地区ほたる鑑賞会」が、ホタル群生地周辺の観賞環境整備を行い、観光客が安心してホタルを観賞することができた（ホタルシーズン来場者数：約4,000人）。</p> <p>③「ホタル鑑賞会」を小半森林公園周辺で開催した（講師：テントテントツアーズ 工藤克史、5/23、5/24、5/30の3回開催、延べ参加者数：約60人）。</p> <p>④「三股津留100万本の菜の花畑」（来場者数：約300人）、「小川地区岩屋の千本桜公園」（来場者数：約500人）地区住民の手により維持管理が行われた。 ・「小半地区ミツマタ群生地」は、自然災害の影響で自生する株数が減少している（来場者数：約100人）。</p> <p>⑤「小半森林公園 大水車の郷」は、台風で破損したバンガロー周辺の整備や大水車周辺の支障木伐採を観光国際交流課と連携して実施した（小半森林公園キャンプ場利用客：2,500人、水車茶屋なのはな利用客：10,710人）。 ・「おおいた地域連携プラットフォーム」から大学生14名が本匠を訪れ、本匠の観光課題を学生視点で解決策を探る「おおいたの地域ブランド創造体験」が行われた。短期間の体験に基づいた成果発表で、4項目の提案がなされた（体験日程：①2月27日・28日 学生14名 ②3月8日・9日 学生12名、成果報告会：3月9日参加者20名）。</p> <p>⑥特産品「因尾茶」の品質向上による生産維持を目的に、因尾茶生産組合に対し組合員の栽培面積に応じた肥料の購入支援を行った（因尾茶生産組合に対し20kg×210袋を配布）。 ・特産品「因尾茶」の認知度向上と普及促進を目的に、リーフティーカップを各種イベントで配布した（配布数：160個）。また、本匠中学校の「茶育」の取組を「本匠の茶育を楽しむお茶レシピ講座」としてさいき城山桜ホールで開催した（食育ワークショップ参加者：11名）。</p> <p>(イ) スポーツツーリズム（サイクリング、クライミング、カヌーなど）や地場産業（しいたけ、お茶など）の体験観光の推進</p> <p>①本匠地域を代表するアクティビティであるカヌー体験は、川遊びの拠点施設「水辺の楽校」を中心に市内外の小中学校の利用で賑わった（水辺の楽校利用者実績：15団体607人）。 ・清流番匠川は猛暑の影響で多くの川遊び客が訪れたが、ゴミの放置などのマナーについて懸念された（7月～9月の番匠川の川遊び客：約2,500人）。 ・本匠地域を訪れる「クライマー」を地域経済の活性化に活用する「クライマー誘客支援事業」を行い、冬場の宿泊施設（小半森林公園キャンプ場、民泊藤の郷）の誘客支援に繋げた（R7年度利用実績：25組利用）。 ・10月12日開催の「ツール・ド・佐伯2025」を前に、多くのサイクリストがコースの試走のため本匠地域を走行した（本匠地域を走行するS、Aコースの参加エントリー数：439人）。 ・12月7日開催の「日本一水車マラソン」は、県内外各地から多くのランナーが集まり冬場の本匠路が賑わった（水車マラソンのエントリー数：301人）。</p> <p>②近年の食育等の意識の高まりを追い風に、(有)きらり 加工所 匠を講師に「家族でつくる手作り味噌教室」を開催した（手作り味噌教室参加者数：19名）。 ・(有)きらり 加工所 匠では、製造している加工品の認知度向上を目的に作り立ての加工品を観光客に直接販売する取組を不定期に5回開催した（延べ来場者数：約330人）。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入

ウ	<p>(ア) 県道三重弥生線の整備の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道三重弥生線改良事業（県施工事業）への連携協力並びに期成会を通じた要望活動の継続的な実施。</li> <li>・ 県道三重弥生線道路拡幅工事（山部工区）</li> </ul> <p>(イ) 安心して暮らせる地域づくりにつながる小規模集落の見守り等</p> <p>① 地域住民の生活を支えるコミュニティバスは、本匠地域だけでなく弥生地域へ運行区域が拡大したことで利便性の向上が図られた（利用者数：7,711人 便数：3,886便）。また、地域公共交通に関する住民との意見交換会を地域振興課公共交通係と連携し、本匠地域の東西2か所で開催した（8月22日 参加者数：20人、8月22日 参加者数：27人）。</p> <p>② 大規模災害発生時に孤立集落が発生しやすい地域住民の互助的な繋がりによる体制づくりを目的に、日本赤十字大分県支部による「防災セミナー」を開催した（参加者数：20人）。</p> <p>(ウ) 持続可能な地域文化をいかした地域づくり</p> <p>① 本匠中学校（生徒数10人）では「小半団七、扇子踊り」の継承を小半地区住民等の指導により取り組み、本匠小学校（4、5、6年生11人）では、「堂ノ間神杖踊り」の継承に取り組んだ。両校とも本匠文化芸術祭2025で披露した（本匠文化芸術祭2025 来場者：約150人）。</p> <p>② 本匠中学校は、本匠地域に俳句文化の普及・定着することを目的に取り組んでいる地域間・世代間交流に対し支援を行った。取組の成果として俳句集を作成した（俳句集「本匠」第3集：120部発行）。</p> <p>③ 「上津川かかしむら」として、10月末から11月末まで約250体の手作りかかしを有志が設置し、地域の賑わいづくりと観光誘客に繋げた（展示期間中来場者：約1,000人）。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入

【1-3 主な取組（R7年度実施）による評価】

評価		評価理由	平均評価
ア	A	清流番匠川を維持するための自然環境に配慮した整備は、河川環境維持に繋がる自然環境及び人との関わりにおける生活環境の保全に向けた取組に繋げることができた。今後も地域単位の部分的な整備だけでなく、関係機関との連携を継続する必要がある。また、防災減災に配慮した災害に強い環境整備は、住民の安全に配慮した安心を感じられる取組を行うことができたため、評価をAとした。	A
イ	A	本匠の観光資源である「ホテル」、「体験観光」「カヌー」などを活かすため、誘客環境整備に取り組み、多くの観光客を呼び込むことができた。特に「本匠ほたる祭り」は、地区住民から構成される実行委員会を中心に、本匠地域全体を巻き込んで賑わいの場を作り出すことができたことは評価できる。また、地場産業の体験観光として「手作り味噌教室」を開催し、参加者からも好評を得られ継続的な開催が見込めた。スポーツツーリズムは、カヌー体験を中心に、交流人口の増加を進めることができたため、評価をAとした。	
ウ	A	各小項目について、関係する機関・部署と連携・協力を図りながら、今後も継続して課題解決に取り組む。特にコミュニティバスは、利便性の向上が図られているが利用にあたり住民から意見が寄せられており継続的に課題解決に取り組む。「防災セミナー」の開催は、高齢化が進む地域で身近な危険をわかりやすく伝えることで、日頃からの防災意識の向上に貢献できた。また、地域文化を活かした地域づくりとして、地元小中学校と連携した伝統芸能継承の取組や「俳句」文化の普及と地域間・世代間交流の促進などにより、地域住民の生きがいがいづくりに貢献できたため、評価をAとした。	

【2-1 目標指標】

	目標内容	基準値・年度	実績値【R7年度】	目標値（令和7年度）	目標値（令和9年度）
(1)	観光等客数	21,000人 R3	27,386人	27,000人	30,000人

【2-2 目標指標による評価】

評価		評価理由	平均評価
(1)	A	令和7年度の目標値27,000人に対し、実績値27,386人であり評価をAとした。年間を通じて天候に恵まれたことから「ホテル・カヌー・川遊び」等の野外活動の来場者は、前年より増加し安定的に集客できた。地域の自然を活かした体験活動を中心に、SNSを活用した情報発信を継続したことが効果的に機能し、概ね順調に推移していると評価できる。しかし、観光拠点施設である小半森林公園に夏場川遊びで訪れる観光客を取り込むことができず、近隣の施設と連携するなど実績値に反映できるような取組に繋げる必要がある。	A

【3-1 重点プロジェクト】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

重点プロジェクト名	
①	自然と遊ぶ本匠プロジェクト

【3-2 重点プロジェクトの具体的な実施状況評価】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
①	<p>(ア) 「第30回本匠ほたる祭り」の開催（イベント当日来場者：約3,000人）。</p> <p>(イ) 「初心者大歓迎！家族で楽しむカヌー体験教室in水辺の楽校」を佐伯市カヌー協会の協力で開催した（2日間開催 延べ参加者数：104人）。</p> <p>(ウ) 「番匠川の川遊び安全講習会」を、国土交通省佐伯河川国道事務所、佐伯市消防本部、番匠川流域ネットワークの協力により開催した（参加者：30人）。</p> <p>(エ) 「本匠な花ウォーク」を開催し、約5kmの特設コースに設置したスイーツを食べながらコースを巡った。ゴールでは、しし雑炊の振り舞いや特産品の販売を行った（参加者数：135人）。</p> <p>(オ) 「本匠振興局Instagram」を活用して本匠地域の自然やイベント情報を発信した（令和7年度フォロワー数：1,075人 ※昨年度から96人増加）。</p> <p>(カ) 「本匠ほたっぴラジオ」のFMラジオ番組を放送した地域振興に携わる各団体が出演し好評を得て、観光誘客に繋がった（放送期間：10月～3月、毎月第3木曜放送）</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 3 改善を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 4 その他</p> <p>※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>

【3-3 重点プロジェクト（R7年度実施）による評価】

評価	評価理由	平均評価
① A	<p>本匠地域の豊かな自然環境の体験として「第30回本匠ほたる祭り」を開催した。イベントの持続性を考慮し、地区の関係者や本匠地域コミュニティ協議会、本匠中学校が一体となってイベントを作り上げることができ、イベントの持続性を示すことができたことは評価できる。また、清流番匠川を活かしたスポーツツーリズムの推進として「カヌー体験」を開催した。川遊びの代名詞であり佐伯市内外から誘客効果の高いイベントであるが、天候・気候の影響を受けやすく、参加者の安全に配慮して取り組む必要がある。地場産業の体験型観光の推進は、食育意識の高まりを受けて「味噌づくり体験」で再開し、参加者から好評を得ることができた。取組全体を通して、地域内外の住民と交流を進め地場産業の活性化を図れ、順調に推移していると評価しAとした。</p>	A

【4 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	<p>環境整備については、国が行う掘削護岸工事や河川支障木整備、市で行った市道の支障木伐採により実施できている。今後も関係機関と協力し全市的な環境保全の取組を継続する必要がある。</p> <p>地域産業の推進については、「本匠ほたる祭り」の継続的開催に向けて地域で連携した組織づくりが行えた。また、「カヌー体験教室」、「川遊び安全講習会」を開催し、夏場の観光誘客や安全な川遊びの意識啓発が行えたことは評価できる。地場産業を活かした体験観光は、手法を見直し食育の観点から加工品の体験に切り替え行った。</p> <p>地域づくりについては、「防災セミナー」の開催により住民同士の連携意識を啓発できた。また、地元小中学校と「伝統芸能」や「俳句」等の取組で連携体制ができており、今後も継続していく。</p>